第４回黒部市都市計画マスタープラン及び黒部市立地適正化計画検討委員会
日時：令和７年８月７日（木）　午後２時 30 分～
会場：黒部市役所４階　第２委員会室

１　開会
２　委員長挨拶
３　報告事項　　報告第２号　富山県黒部市都市計画マスタープラン見直し案について

＜県担当者説明＞

４　協議事項　　協議第６号　都市計画マスタープラン修正素案について

＜事務局説明＞

（委員長）　前回の質問に対して一つ一つ答えていただき、前回検討委員会以降の修正箇所について説明があった。改めて今の説明に関して、前回出した意見への対応も含め、ご意見、ご質問があればお願いする。

（委員）　既存の用途地域にある空き家も含め、立地適正化計画に基づき駅周辺等に居住を誘導していくという黒部市の基本的なスタンスは理解できるが、線引きしていないので白地地域での開発が抑えられない。それに対して、委員長の質問への回答として制限を含む対応を検討する（104 ページ）との説明であったが、具体的に何かイメージしているものはあるか。白地地域に制限をかけるとしたらどういうものを想定されているのか確認したい。

（委員長）　県の都市計画区域マスタープランでは、「h 計画的な都市的土地利用の実現に関する方針」（第２章 6 ページ）に「白地地域のうち、無秩序な開発が進展する可能性のある土地についても、適正な土地利用コントロールを図るため、地区計画等の活用を検討する」と書いてあるが、市の都市計画マスタープランの方に記述はないのか、という私の質問に関連するところかと思う。

（事務局）　白地に規制をかけるとすると地区計画、建築協定、景観協定などになる。加えて想定できるのは、地区計画までの強制力はないが、紳士協定や地域での申し合わせになる。確かに県の区域マスには書いてあるので、市の都市マスにも盛り込む必要があると思う。検討する。

（委員）　前回の発言に対応していただいたが、66 ページの「ＵＩＪターンに寄与する土地利用の促進に向けた柔軟な対応に取り組む」という用語がよく分からない。「柔軟な対応」とはどのようなことを指しているのか、もう少し市民に分かるような表現をしてもらいたい。

（事務局）　規制による土地利用もあるが、本市では利用促進のために補助事業を活用するような緩やかな誘導を行っている。「柔軟な対応」とは、そういったところも含めた対応とご理解いただきたい。

（委員）　家賃補助等のことか。

（事務局）　ご理解のとおりである。例えば居住誘導区域内に住宅を取得した際には 100 万円以上の支援などをしている。そういったことで緩やかな誘導を図っていくというイメージである。

（委員）　商工会議所の空き店舗ネットワークと連動して 200 万円を上限に家賃補助をしていなかったか。連動という表現は正確ではないかもしれないが。

（事務局）　商工会議所も市も、リフォームや空き家の利活用に対する施策はある。市では主に都市計画に基づき、商工観光とも連携して、住宅施策として空き家も含めて居住誘導区域に誘導している。どちらが先かということではなく、商業系は商業系で、住宅系は住宅系でそれぞれ考えているような状況で、今後もこういった対応は引き続き進めていく必要があると考えている。

（委員）　「柔軟な対応」ではなく、もう少し積極的に動いてもらえないかという思いがある。こういうふうにするからここへ市民を誘導する、というような形のものにならないのか。特に 20 代、30 代の女性が帰ってこないことが非常に問題で、市でももっと中核的で重要な問題として取り上げて、働く場の確保や起業というところに力を入れてもらいたい。可能であれば意見を汲み取ってもらいたいと思う。

（委員）　それぞれの地域の特性を考えて色々な施策が記載されており、作り込まれた計画だなと思って見ていた。私は滑川市立地適正化計画策定委員会の委員も務めているので、他地区の事例も挙げてお話ししたい。

滑川もプラントの方にかなり住宅が流れ出てしまって、西部小学校が４クラスになるなど、一気に増えて一気に減るというような状況の中で今、立地適正化計画が立てられているという状況である。県の都市計画課からも委員が来られていて居住誘導区域を狭めてはどうかという提案があり、議論した結果、上小泉は入れずに小さい都市機能誘導区域を設定した。白地に対する対応は各市町村とも大変苦労しているように見える。

富山市でも市街化調整区域外の旧大山町の大庄地区に家が建ち始め、コンパクトシティということで鉄道沿線への補助制度や居住誘導をしているような状況になっている。

黒部市も、前回の都市計画マスタープランのときからイメージ図を作られていて（65 ページ）、大変分かりやすい。ここまで入っているものは他に富山市くらいかという感じもする。この後、概要版を作られるのだろうと思うが、都市未来像などは大事にした上で、例えば「レールサイドストーリー」とか、何か外向けのキャッチーな表現を考えて

少し分かってもらいやすくしてはどうか。例えば富山市では「くしとだんごのまちづくり」という、外から来る人がどこに住めばよいのか分かるような表現、ワンキャッチフレーズを考えている。せっかく都市計画マスタープランという立派なものができるので、先ほど委員長から話のあった見える化、分かりやすい化という中で、今後、そういう外向けの表現も使いながらやっていってもらえればよいのではないかと思う。そのあたりで何かお考えがあれば伺いたい。

（事務局）　確かに、それを聞けば黒部市のまちづくりの方針が分かるようなキャッチフレーズがあればいいなと思うので、また内部で考えてみたいと思う。この場で作るとは言えないが、考えさせていただきたい。

（委員）　農業に関することで聞きたいことがある。現在、中山間地域は基盤整備をしても大規模化ができない。なおかつスマート農業も中山間ではできない。いずれ担い手がいなくなってきたら、将来的には空き地、休耕田になっていくと思う。農業委員としてはそういう部分を増やしたくないということで色々考えてはいるが、具体的な案が出てこない。そういうところを都市計画の中に何か組み込んでいただけるか。

（委員長）　農業の担い手的なところか。

（委員）　農地を休耕田にしたくない、空き地が増えるということについてである。

（委員長）　農業をやられる方自身がそこに住んでいるが、やらないということか。つまり担い手がいないということか。

（委員）　中山間地域には多面的機能支払交付金等、いろいろな補助金が出るが、正直なところ草刈りや水管理の問題等々相まって、だんだん負荷がかかってきていると同時に、農業人口も少なくなっている。将来的には農地を手放す人が増えるのではないかということを非常に危惧しているところで、休耕田を増やさないために、中山間地域についてもやはり皆さんに何らかの形で頑張ってもらわないといけないと思うのだが、都市マスを今見ている限り、具体的な案が出てきていないのが実際かと思う。

（委員長）　都市計画区域マスタープラン、都市計画マスタープランでは、主として都市的な土地利用の話がメインになる。担い手のところなのか、どうお答えすればよいのか悩むところだ。

（事務局）　委員長が言われたように、都市計画マスタープランは都市の土地利用の将来像を描いたものである。ただ、確かに担い手不足や地域コミュニティでだんだん若者が少なくなってくるといった課題もあり、担い手不足や休耕田にならないような施策は確かに大事だと思うが、そのあたりについては都市サイドではなく、やはりまずは農業サイドでどのように課題を解決していけばよいかが先決かと思う。

一方でそういう話はよく聞くので、既におっしゃっているとは思うが、今回いただいた意見は農地サイドに伝え、なにがしかの対策が講じられるようにしたい。そこで具体的な話が出てきたときに都市計画の方で採用できる中身があれば、私たちとしては検討を進めていきたいという姿勢になると思う。

（委員長）　都市計画審議会の中で、農業の方で制度が変わってから、農地が比較的宅地化されやすいような状況が生まれてしまっているため、まちづくり条例のような形で事前協議がある程度できるのであれば、そのタイミングで農業委員会としても早めに相談するなどできるため、可能であればぜひお願いしたいという発言があった。

都市計画審議会でも話したが、白地の話も農地の話も非線引きなので、立地適正化計画に基づく届け出のみでは、30 日前に届け出があったものに対してそのタイミングではもう何ともし難い。事務局から説明があったとおり全国的にそういう話で、それを避けるためにやはり要綱なり条例なりで事前に協議してもらう以外、実態的にコントロールしていくのは難しいということがもう分かっていて、条例や要綱の検討をお願いしてきたところである。なかなかはっきりとは言えないと思うが、次の議論の中でも実現化の方策がキーになると思うので、この件については次の議題でもう一度話題にできればと思う。

（委員）　中心市街地で懸念される空洞化やにぎわい低下の影響を考慮しながら対応していくということだった。あいの風黒部駅から背骨の通りを中心に中心市街地になると思うが、現状、商店だったところがテナントにも貸せないような間口の住宅地になっている中で、どのように中心市街地のにぎわいを戻す方向性をつけるのか、全然イメージができない。５年後、10 年後も中心市街地が中心市街地であり続けるようにするのであれば、何かもっと違う表現をして、抜本的に強制力をもって誘導していかないと、活性化、にぎわいを取り戻すような中心市街地はつくれないのではないかと思っているが、いかがか。

（事務局）　現時点では、強制力をもってというのは都市計画的には難しいという認識である。強制力を加えれば加えるほど、黒部市が住みづらいまちになると解釈する人の方が多いのではないかと思う。そうではなく、やはり誘導していくときには、今、何が課題で中心市街地に来られないのか、間口の話も当然あろうかと思うし、商業サイドともそういった議論を少し進めていく必要があろうかと思う。強制力となるとなかなか難しいし、都市計画法上、そもそも他の自治体も含めて事例がないと思っている。

（委員）　強制力というのは確かに少しきつい表現になると思うが、三日市商店街などで商売をしていて、跡継ぎがおらずどんどん閉店して住宅地化が進行している中で、中心市街地に来てほしいと言っても何もないところに人は来ないだろう。であれば、中心市街地の概念をどう拡大解釈するのか、三日市なのか、大布施や田家の方まで入れていろいろしていくのかというところになると思う。

強制という表現が正しいかどうか分からないが、やはり最低でも店として、テナント

として貸せるような形をとどめるよう店を開いていた人たちに呼び掛けるなどしながら、今ある建物を有効活用できるようにしたり、今、商店街の住宅に住んでいる人たちに補助を出して郊外に行ってもらったりして、大町通り等々のにぎわいをいかにスピーディーに活性化させるかが、にぎわいにつながるのではないかと思っている。

（事務局）　答えになるかどうか分からないが、まず、中心市街地、三日市地区は商業系の用途地域が指定されており、にぎわいづくりということで「あおーよ」や市役所もある。中心市街地に人が集まるような形になれば、そこで店をやろうという意欲を持つ方も出てくるのではないかということで、さまざまな施策を取ってきているところである。

空き家や空き店舗も含めたさまざまな補助制度を商工観光系の部署でも持っており、連携しながら中心市街地にもっと人を集め、そこで店を開きたい人も増やしていくというようなことを計画の中で位置づけ、進めていければと思っている。○○委員からの話も含めて、記載されているというところを少しご配慮いただければと思っている。

（委員長）　○○委員が柔軟な対応のところでもう少し積極的な書き方ができないかと言われたのと少し似ているかと思ったが、都市計画的な対応、先々まで土地利用の方で考えようとするとなかなか難しいと思うが、都市計画というマスタープランがあって、その後土地利用の規制があって、最後に事業で積極的に投資していく部分があると思うが、最後の部分のところで商業ベースの話だとか、何かもう考えていることや実施していることがあるのであれば、それをマスタープランに書き込んでもらえば答えになるのかなと思うがどうか。

（事務局）　実際に実施してきたことを継続してまちづくりを進めていくということを加筆させていただく形でよければ、書きぶりを改めて考えてみたい。

（委員長）　多分、すごく真剣に現状を憂いてというか、目標を達成できていない現状を踏まえて、これまでどおりでは何ともならないのではないかという課題認識からの発言だと思われる。もう一歩、ビジョンを実現していくためには少し考えなければいけないのではないかという意見だったと思うので、検討いただければと思う。

（委員）　○○委員が三日市の話をされたが、個人的な意見では、それはあくまでも過去の話で、今は５年、10 年、もっと先のことを提案すべきなのだろうと思った場合、これだけ住んでいる人が減って、われわれの子どもたちも東京などに出ていくと戻ってこないのが現状である中で、いかに戻ってきてもらうか、また新しくゆかりのない人に来てもらうかを考えたときのキーは、新幹線駅だと思う。今は地権者の関係でほとんど何もないが、新幹線が通って 10 年が経過し、観光を中心にそれなりに人は来ており、今後も来る可能性は十分にあると思う。

過去にこだわって商店街に人が戻ってこないと悩むよりは、将来を見据えて黒部宇奈月温泉駅を中心にしてにぎわいや住まいも含めて検討して、そこに投資するなり何かを持ってくるようなことを考えていく方が、黒部市の発展としてはよいのではないかと思

う。

（委員長）　新幹線駅周辺についてはこれまで議論してきた経緯があると思うが、他の方はどのような考えか。都市計画の今の都市構造の図を見る限りでは、新幹線駅の周辺に居住を進めていく考えは少なくともない。

（委員）　居住よりもまずは商業的なもので、昨年、敦賀まで北陸新幹線が延伸され、温泉という名の付く駅が加賀温泉駅、芦原温泉駅、黒部宇奈月温泉駅の三つあるが、その中で一番商業施設がないのが黒部宇奈月温泉駅である。加賀温泉駅と芦原温泉駅には駅内に商業施設が何店舗もある。そうすると人も集まってくるし、にぎわいも出てくる。聞くところによると、10 年前に駅舎を建てたときには商業施設は入れない計画だったようである。黒部宇奈月温泉駅も 10 年が経過し、周辺の地権者なども考え方が変わったかもしれない。商業施設を受け入れてもいいと言ってもらえるのであれば店舗を増やしていけば、自然に人も集まってくるようになるのではないかと思う。住んでほしいというわけではない。住める要素があれば、住んでもらってもいい。

（委員長）　過去に同じような話題が出ているかと思うが、他の委員の方はどのようにお考えか。私は、この件についてはこれまでのいろいろな経緯や議論もあった上で、今のような都市構造になっていると理解しているが、どうか。

（委員）　私も委員長と同じような感覚だ。平成 13 年ごろからまちづくり協議会で新幹線駅の周辺にはまちをつくらないということで議論されて、こういう都市構造になったと理解している。どこの地区でも居住誘導区域を広げようという意見が出る。しかし、黒部市の平野は山手線の内側と同じぐらいの面積で、そこに東京では何千万人も住んでいるが黒部では３万～４万人で、その財政規模で経営していかなければいけない。そういう中においては、行政側としては都市計画マスタープラン、立地適正化計画では居住誘導区域を絞っていくというのが、人口減少時代のトレンドなのではないかと理解している。

　また、本市には鉄道がある。鉄道は外部からいろいろな人が呼べるツールでもあって、多様性が豊かになるインフラでもある。それをもって都市部から、Ｉターンではないが、商売をする方などともいろいろな交流ができるツールでもあると思うので、基本的にはこの都市構造を生かしながらまちづくりを進めていくという方向かと理解している。

（委員長）　三日市の中心部にもう少し力を入れていかなければいけないのではないかという意見と、同時に新しい新幹線というものを生かしたらどうかという意見があったが、他に意見はあるか。

（委員）　企業との関係はどうなっているのか。黒部市にはＹＫＫという大企業があって、パッシブタウンなどいろいろなことをしている。やはり企業を巻き込んでいかないと、どうしようもないのではないか。日本中が人口減少しているのだから、黒部に他の県か

らというのもなかなか難しいだろう。
　あと、空き家バンクなどをもっとＰＲして利用すればよいのではないか。そういうことをできればお願いしたいと思っている。

（委員長）　他に意見がある方はいるか。

（委員）　中心市街地の三日市商店街で仕事をしているが、やはり担い手がいない、引き継いでくれる者がいないと、なかなか商売も成り立たない時代に入っている。三日市のまちの中を見ると、商売をしてもなかなかもうからない、やめても次がないという大変な状況に置かれていると思う。
　先ほど鉄道の話が出たが、地鉄は電車好きな方にとっては魅力的で、宇奈月でも電車のイベントがあると多くの人が来る。そういう形で黒部駅を少し見直して、鉄道を利用してまちの活性化を図るとよいかと思う。確かに三日市、三日市と言いながら本当に廃れてきているのは事実で、どこにてこ入れすればいいか分からないというのが商店街にいる人間たちの思いだ。三日市商工振興会として何をすればよいのか分からないという状態で役員会をやっているので、何か知恵があれば貸していただきたいと商店街としてお願いする。

（委員長）　三日市中心街の担い手の話も出たが、他に、どうぞ。

（委員）　２点ある。一つは、建物設計をしている観点から言うと、今、Ｉターンなどで外から来られる方や若い方の相談を聞くと、まちなかに住みたいという要望がない。景色などに魅力を求めている方が多いので、探してほしいと言われる所は田んぼとまちなかのちょうど塩梅のいい境目の辺りが非常に多い。だからどうということはないが、そういった方の求めているものと作りたい都市の形とは相いれない部分があるのでないか。
　もう一つは、〇〇委員の話に非常に共感した。三日市で店をやりたいという方が不動産屋に聞いても、場所が全く見つけられないと聞く。不動産屋は空き家の情報は持っているが、スペースを借りる窓口はあまり積極的にしていないようで、外から来て商売したい方が三日市のまちなかで物件を探すのは非常にハードルが高いと聞いている。今、黒部市が進めているところではないが、そういうところに対しての民間の力の投下が弱まっていることも原因なのかなと思っている。
　そこで最初に戻るが、このマスタープランについて意見というわけではないが、もう少し他のいろいろなものを巻き込んでいったり、考え方を変えたりしていかないと、まちの活性化はなかなか難しいと感じる。

（委員）　私も建築をやっていて、特に住宅などは広くて景色が良い所を求めるお客さまが多くて、基本的に狭いところに住みたいという方はなかなかいないのが実態で三日市を居住誘導区域に設定しても、幾つかの条件というかメリットがないと来ないだろうというのが正直な思いだ。
　この冊子については、いろいろ調べられて非常に優れた立派なもので、これを読めば

明るい未来が感じられる良いものになっていると思う。〇〇委員からも一言あったが、キャッチフレーズのようなものがあればいいのかなと私も思う。あと、量的に半分くらいにしてもらいたいというのが正直なところだ。われわれ市民が読んで分かりやすく、希望が持てるようなものになればいいと思う。

（委員長）　〇〇委員から最初、ＹＫＫさんなどの企業がやっているまちづくりなどとの連携はどうか、三日市の商店街は別にしても、同じように官民連携の観点からもう少しやり方があるのではないかというご意見を頂いた。そこは一つ入れてもいいのではないかと思うので、ご回答いただきたい。

また、やはり若い人たちは郊外の方にニーズがあるのではないかという意見については、居住誘導区域の中だけではなく、拠点として定めているところがある。そこについてもう少し役割分担が分かるように見せていくというのは一つあるかと思う。富山市もまちなかだけではないので、居住誘導区域というのはどちらかというとまちなか居住のスタイルを推しているところで、それ以外のところでも維持しなければならないところに人を入れていくというところがあると思うので、まとめて回答していただければと思う。

もう一つ三日市について、何か工夫や意見があれば皆さんから頂きたいという話や、入ってきたい方もいるのに入れないという話があった。中心市街地活性化との関係というのはあまり打ち出していないが、元々は三日市等の中心部に関しては、中心市街地活性化法に基づく計画と連動して進めてきたところではあるので、黒部市でどういう中心市街地活性化の計画を持っているのか分からないが、そこは都市計画マスタープランとは別に、中心市街地の方のプランもお持ちだと思うので、そこと連携したらどうかと思う。

あと、具体的に出てきたい方が出てこられないというような課題があるのであれば、ここはマスタープランの議論の場なので少し外れるので、そちらに何かあるのであれば、そちらでやっていただくのがいいと思うし、それを踏まえてこちらにフィードバックしていただくのがいいかと思った。

意見をまとめたつもりだが、質問に回答していただくことはできるか。

（事務局）　企業との連携については、確かに生地駅周辺で大きいものとしてはＹＫＫさんがＩ－ＴＯＷＮをやっていて、マスタープランには具体的にＩ－ＴＯＷＮを支援するとは特に明記はされていないが、関係者の皆さんと話をしながら、市は市で課題の整理を行っているような状況で、全く連携していないというわけではない。

また、公共交通についても、元々ＹＫＫさんが社員用のバスとして運行していたものを、ＹＫＫさんと市でお金を出して南北循環線として、一般の市民の方も乗れるようにといったこともしている。中心市街地で「ちょいのり黒部」という登録制で無料の貸出自転車のステーションの整備等にも協力していただいている。ＹＫＫさん以外の企業とも連携したいので、もし、企業の方でこういうことをしたいと思っているので市と一緒にやっていこう、という話があれば、これからもどんどん耳を傾けていきたいと考えている。

空き家バンクについては、昨年度オンライン化してかなり利用が便利になったと聞いているが、空き家の持ち主がなかなか登録してくれない。つまり、今住んでいる皆さんは、別に空き家を引き継いでも生活自体は困らない。いつか処分しようとは思うのだろうが、家財道具の処分などが手間、面倒なので進まないという状況だと認識している。そういった方々に少しでも空き家を利活用してもらうような施策は、都市計画課が主体になって考えてはいる。

黒部駅についても、本日ご参加いただいている何人かの方とは、駅の西口、海側の方に改札等を整備していく方向で話をさせていただいている。今は海側に駅を利用したい人がいても反対側に回らなくてはいけないので、西側から利用できるようにして利便性を向上させていく検討を進めている。

それから、まちなかよりも郊外に住みたいという話については、都市計画課の方で個別事業として皆さんのニーズを聞いて、市としてどんなことができるか検討したい。三日市で商売をしたいと思って不動産屋に相談しても見つからないというのは、私も初めて聞いた話であり、耳を傾けていきたいと思う。

キャッチフレーズの話は先ほどお答えしたとおりである。

最後に、お褒めの言葉も頂いたが、概要版を作らせていただいて、まずはそれで見やすくしたつもりではいる。会議終了後にでも確認いただけたらと思う。

あと、新幹線駅周辺の話については、かねてから本市では、どこかを中心にすると必ずどこかは中心でなくなるという形になるが、４万人の人口がどんどん減っていくと、４万人以下の人口で中心市街地を幾つも作ることはできないということで、そもそも庁舎をここに建設するときにもいろいろ検討している。それから、中心市街地を活性化させようということで「あおーよ」を整備したり、病院も建て替え事業を行ったりという状況である。新幹線は新幹線で商業施設のニーズについては時々聞く。一般の方もそうだが、事業者の方からも商業施設の中でもビジネスホテルを一つぐらいは作ってほしいといった意見もある。私たちとしてはそういったものにしっかりと耳を傾けていきたい。

いずれにせよ、行政がそれを主導的にやったとしても最後は立ち行かなくなるので、どちらかというと民間の方がそういった相談があれば、私たちは特に拒むつもりはなく、むしろどのようなものをどうお考えかということはしっかりと聞いてきており、これからも聞くつもりではいる。現時点では、やはり中心市街地はここだということで今、計画は進めているところである。

（委員長）　私から申し上げたのは、郊外に住みたい方とまちに住みたい方では、そもそもライフスタイルがそれぞれ違う。幾つかのパターンを皆さんお持ちなので、それをちゃんと分かりやすく伝えるようにしていただけるとよいのではないか。立地適正化計画の中の「コンパクトかつ公共交通等ネットワークが充実したまちづくり」の中で、居住誘導区域ではないところにも生活拠点を設けており、どこの自治体でもやられているが集落の生活拠点もある。それが伝わるようなキャッチフレーズを考えて、見せていくときに生かしていただけるといいのではないか。移住者や若い方に対してもきちんと伝わるように、あるいは中に住まわれている方、開発業者にも伝わるようにしていくのがいいのかと思う。元々マスタープランも立地適正化計画も公表されているが、理解してい

ただいているかどうかが重要であり、積極的にある程度見せていかないと、30 日前の届け出だけでは効果がないため、私からのお願いだが、もう一回事前協義の方法、要綱でできないかということも含めて検討していただけると有難い。

　では、意見も尽きないところだが、協議第６号に関しては概ね了承という形で、修正版について郵送などで意見を改めて調整するということでよいか。

（事務局）　基本的には委員長及び事務局にお任せいただき、１週間ほど前に送って全部理解してというのも大変だと思うので、しばらくの間、質問等あればお受けして、それを受けて委員長と事務局とで整理して進めさせていただければと思っている。ただ、大きな話になれば皆さんにももう一度お伺いしたり、お声掛けして会議の場を設けることも拒んでいるものではないので、そのように進めていけたらと思っている。

（委員長）　まだ言い尽くしていない意見があれば、書類で提出していただくなり、事務局の方に送っていただいて、それを委員長預かりで議論させていただき、大きなものがあれば、改めて郵送するなり、もう一回会議を開くなりして議論させていただくということで、異議はないか。（異議なし）

協議第７号　（第７章）実現化の方策について

＜事務局説明＞

（委員長）　ご意見、ご質問があればお願いする。

（委員）　実現化に向けては、県も黒部市にぜひ協力していかなくてはいけない。例えば最後の見直し案の、特に実行のところで施策・事業等の実施の、都市施設の整備であるとか市街地の整備の実施、特に三日市の中心市街地の再整備等を実際にやるとなれば、国からの支援などが実現に向けては重要な要素になると思うので、そこについては国からの最新情報を県の方でまたいろいろ聞くなどして、黒部市から相談があれば、どういう政策があるとか、どういう事業があるかということも情報提供していきたいと思う。

　立地適正化計画を作ったことによって補助化になるメニューもあると思うし、都市再生整備計画を作ればそれに対する国のメニューもあるので、県としても黒部市に協力していきたいと思っている。

（委員長）　他にご意見あるか。

（委員）　これに対しての意見ではないが、黒部は鉄道がすごく特徴的だと思うが、市民はそう思っているのだろうか。鉄道ファンにとっては非常に魅力的で、私も地鉄に乗るときに「これは阪急電車か」などと思いながら乗ったりするが、市民は本当に魅力的だと思っているのか。つまり、そこにギャップがある。便利であることは間違いない。客観的に書いてあることは間違いない。しかし、市民の意識は違う。例えば、私は今日こ

こに来るのに、駐車場から庁舎に入るまでしか歩いていない。Door to Door で生活しているため、駅まで行くのが遠いと思う人がいる。コミュニティバスのバス停までの５分がもう遠い。でも、都会へ行けば、駅の中を歩くだけでも 10 分ほど平気で歩く。そこの市民の意識がこれからの時代に合っているのかという問題がある。それを変えていく必要が、例えば交通で言えばあるのではないか。マスタープランから大きく離れた根本の話をしているが、市民のマインドを変えていくところへの働きかけが必要なのかもしれない。

それではというので市が公民館へ行って説明しようとしても、市民は自分が今の生活で困っている部分があるため、市への要望もしくは攻撃、不満のはけ口になってしまう。市民自らがわが事として考えてなくてはいけないのだが、市役所が来ると、信頼感の裏返しでもあるのだが、行政に言えば何とかしてもらえるとなってしまう。

その姿を見ていて私が考えたのは、できれば市役所はある場面では黒子になってもらって表に出ない。例えば、県が予算を付けて「とやま未来共創会議」をやっているが、あれなどはすごく良かった。後ろに市の人がいて市長がいるけれども、自分たちでやっているから誰も文句は言わない。自分たちのことだと思ってやっている。そういう意識の変革をどこかでやっていかない限り、きっとこの構図はずっと変わらないまま進んでいってしまうのではないかという気がする。

他には、先ほど〇〇委員からもあったように、住宅や商業、店舗などについて、設計士と建築士、銀行、不動産屋が集まって話し合いをして、それを市役所が表に出ないで支えるような場があれば、市民が建てたい場所に住居が建てられ、使いたい店舗が出てきて、もしかしたらそこで起業する人が出てきて、200 万円借りて家賃が半分で済むような人が出てくるかもしれない。忙しいから大変だと思うが市にはそういう黒子的な役割をしてもらって、民間の力を使って進めていくというようなやり方を実現して前へ進めてもらって、マスタープランの中に出てきている言葉が実際の施策として出てくるようお願いしたい。

（委員長）　自分事として考えていただける方法について意見を頂いた。他に意見は。

（委員）　関連して、プリントを配らせていただいている。本来、〇〇委員がお話しになればよいのではないかと思うのだが、自分事ということで黒部ワンコインプロジェクトについて話をさせていただく。黒部市内には幹線鉄道はあいの風鉄道と北陸新幹線の二つあるが、その他地域鉄道ということで地鉄があり、観光で黒部峡谷鉄道があるが、地鉄線がどうなるかという状況にもなっている中、自分事としてまず勉強して、判断できる力を付けていこうということで、昨年から協働型事業で黒部市と一緒に黒部ワンコインプロジェクトをやっている。これは鉄道という地域鉄道を考える会だが、こういうプロジェクトに参画して自分事として考えていくということも、今後の実現のところに一例として取り上げていただければと思い、プリントを配って紹介させてもらった。

ちなみに、講演会は既に終わっているが、YouTube で発信している。ＱＲコードを読み取ればスマホでも見られるし、YouTube で検索しても見られる。他県の先生のヒントを与えてもらえる講演だったので、ぜひ皆さんも見ていただければと思う。

（委員長）　他に意見はあるか。大体意見は出尽くしたようなので、協議第７号についても、事務局でまだ書き切れていないところもあるので、言いたいことを後で思いついた方は文書で事務局に提出していただいて、委員長と事務局との預かりでいったん案を作らせていただいて進めたいと思う。その方向で承認していただいてよろしいか。

それでは、皆さんから活発なご意見を頂いた。ありがとう。事務局にお返しする。

５　その他

６　閉会